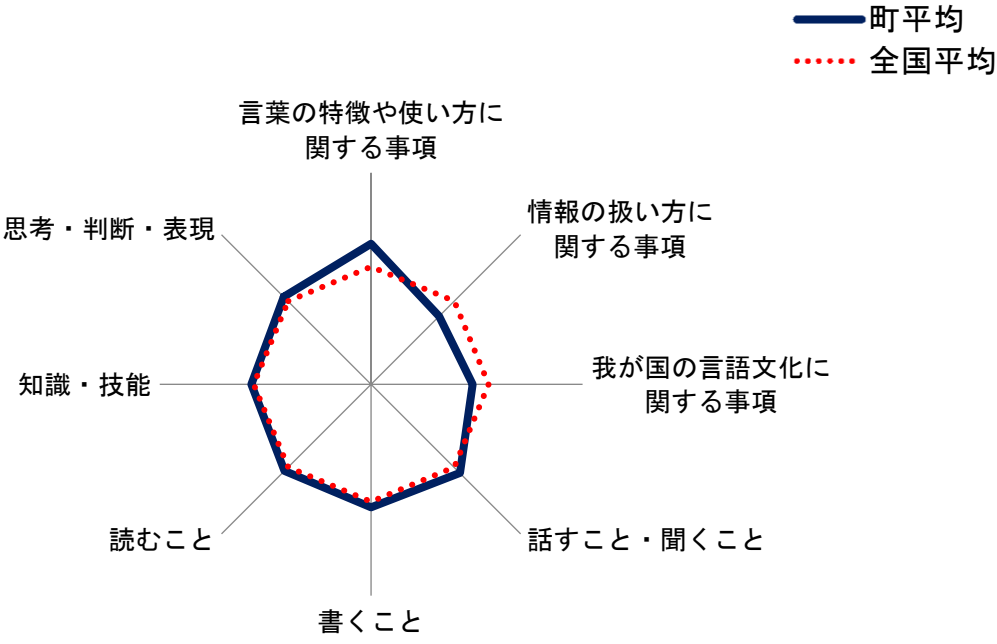
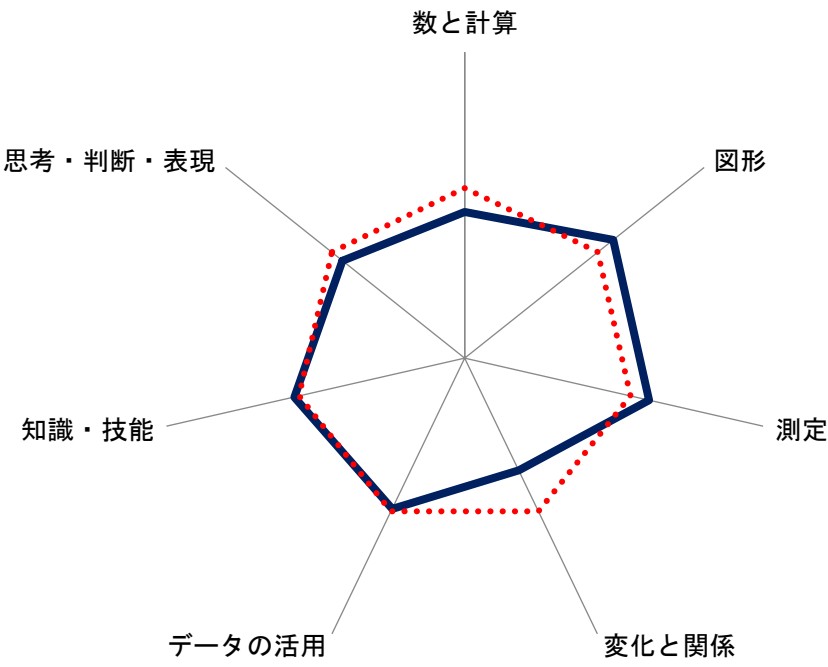


○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

【国語】

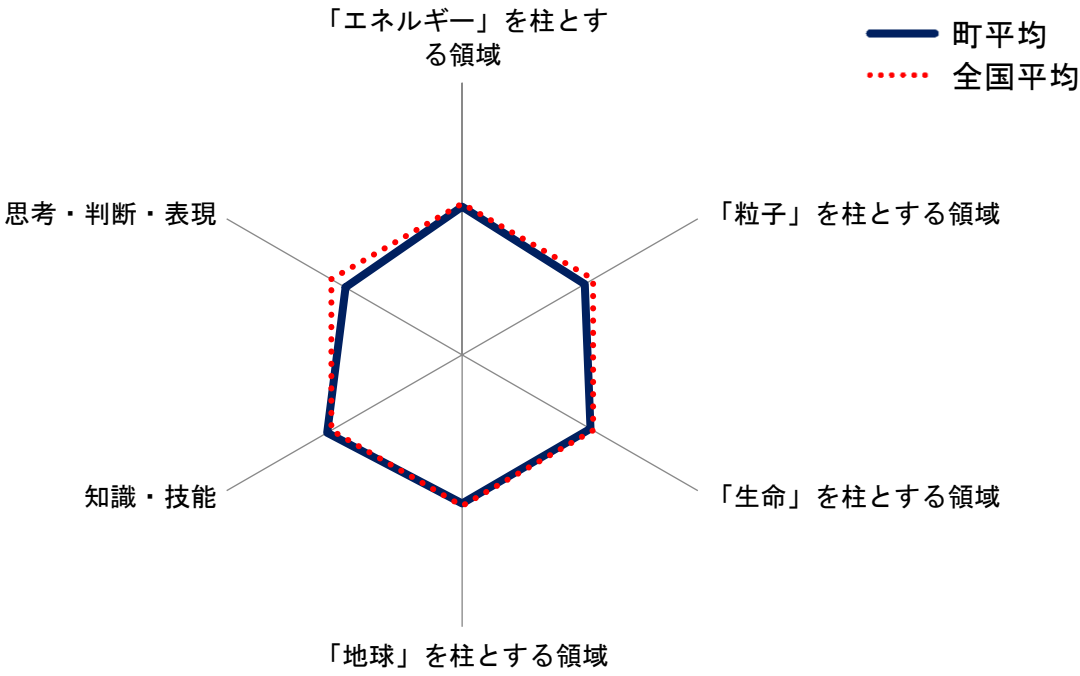


【算数】

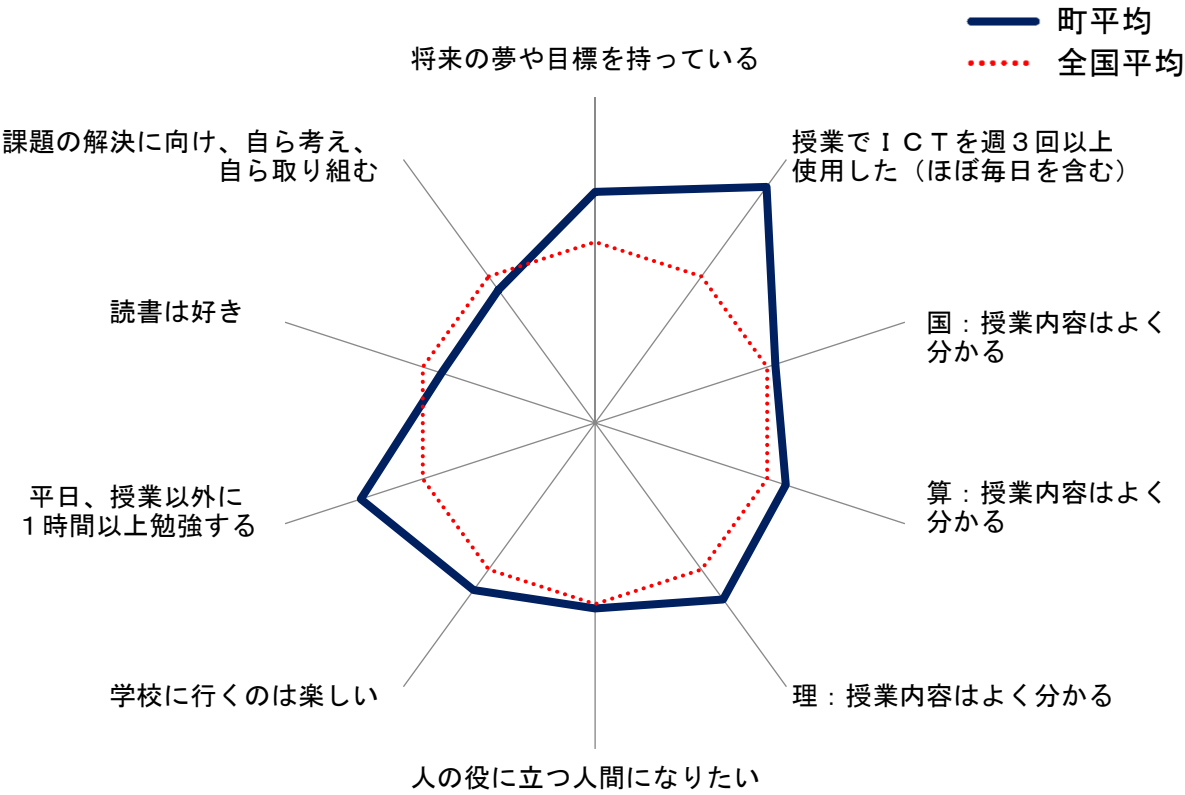


○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

【理科】



○ 児童質問調査 (全国の平均回答率との差：肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

教科に関する調査では、昨年度課題の見られた国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の項目が、今年度は全国平均を上回っており、授業において課題克服に向けた活動に取り組んだ成果が表れている。一方、算数の「数と計算」「変化と関係」の項目が、全国平均を大きく下回っている。今後、児童一人一人の結果を詳細に分析し、課題を明らかにした上で、知識及び技能の確実な定着と、それを基盤とした思考力、判断力、表現力等の向上を相互に関連付けた授業づくりなど、学びの質を高める取組が望まれる。

児童質問調査では、多くの項目において、全国平均を上回っている。特に「授業でICTを週3回以上使用した」「平日、授業以外に1時間以上勉強する」「将来の夢や目標を持っている」の項目が全国平均を大きく上回っており、キャリア教育やICTを活用した授業の実践研究が推進されている成果がうかがえる。今後も、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることで、児童にとって「分かる」「できる」を実感できる授業となるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善をより一層推進することが望まれる。